

対象	方法	評価判定	根拠の質
胃	胃X線検査	有効	症例対照研究
	血清ペプシノゲン法	保留	なし
	ヘリコバクター・ピロリ抗体	無効	その他
子宮頸部	細胞診	有効	症例対照研究・コホート研究
	ヒトパピローマ・ウイルス	保留	なし
子宮体部	細胞診	保留	なし
	超音波(経膣法)	保留	なし
卵巣	超音波	保留	なし
	超音波+腫瘍マーカー	保留	なし
乳房	視触診	無効	症例対照研究
	視触診+マンモグラフィ	有効	無作為化臨床試験
	視触診+超音波	保留	なし
肺	胸部X線+喀痰細胞診	有効	症例対照研究
	らせんCT+喀痰細胞診	保留	なし
大腸	便潜血検査	有効	無作為化臨床試験
肝	超音波	保留	なし
	肝炎ウイルスキャリア検査	有効	無作為化臨床試験
前立腺	前立腺特異抗原(PSA)	保留	なし
	直腸診	無効	症例対照研究

判定が保留になっている検診方法や、検討の対象外になっている方法(胃内視鏡や大腸内視鏡検査など)は、現在十分な研究が行われていないため、正確な判断ができていません。

「効果がない」というのとは異なり、これからの研究成果により「効果あり」と判断される可能性もあります。そのため、がん予防・検診センターでは、こうした検診方法が健康な人を対象としたがん検診として、有効か否かの研究を進めています。

(出典:国立がんセンター 科学的根拠に基づくがん検診より)

受診率の算出方法

【胃がん・肺がん・大腸がん】

$$\text{受診率} = \frac{\text{当該年度の受診者数}}{\text{当該年度の対象者数}} \times 100$$

【子宮がん・乳がん】 ※ 対象者数は、年1回行うがん検診の場合と同様の考え方で算定してください。

$$\text{受診率} = \frac{\{(\text{前年度の受診者数}) + (\text{当該年度の受診者数}) - (\text{前年度及び当該年度における2年連続受診者数})\}}{(\text{当該年度の対象者数})} \times 100$$

がん検診は、原則として一人につき年1回行ってください。
 子宮がん検診及び乳がん検診については、原則として2年に1回行い、前年度受診しなかった方に対しては、積極的に受診推奨してください。
 また、受診機会は、子宮がん検診及び乳がん検診についても、必ず毎年設けてください。
 受診率は、上記の算定式により算定してください。